島根県水産技術センター　トビウオ通信 号外　平成 21 年 6 月 17 日発行

とびっくす　No.44

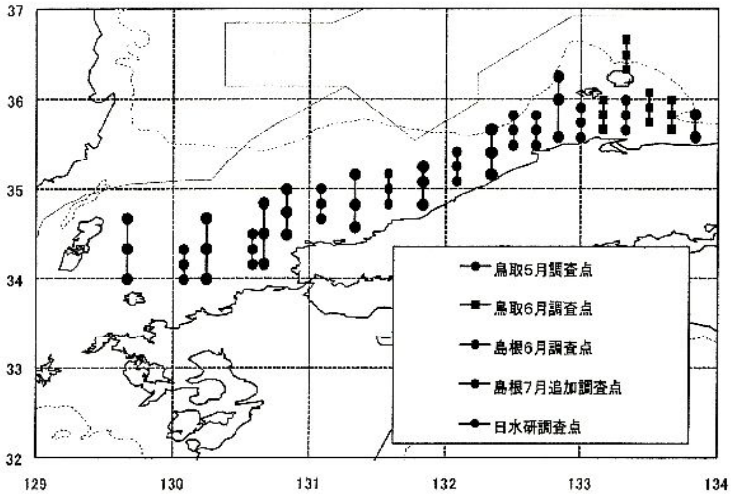
（本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ ）

深海からの珍客！

～マアジ新規加入量調査から～

魚介類の豊漁不漁を予測することは水産技術センターの重要な仕事のひとつで、そのためにさまざまな手法が用いられています。当センターでは、近年浮き魚の主体となっているマアジの漁模様を判断するために､海の中層を網で曳き漁獲サイズに達する前の幼魚を採集し、加入する群れの量を推定するという調査を実施しています。この調査は山陰沖から対馬海峡までの広範囲にわたるため水産総合研究センターや鳥取県の水産試験場と共同で行っています（図参照)。

昨年の調査結果から、今漁期はマアジ１歳魚（極小）が多いことが予測され、これについてはトビウオ通信第４号でお知らせしていますが、先月から予測どおりマアジ１歳魚が順調に水揚げされており、担当者は胸をなでおろしているところです。



調査位置

今年も５月下旬から６月上旬にかけて前半の調査を行いました、詳細な結果については調査終了後にとりまとめて発表しますが、今回はこの調査でマアジ以外の珍しい魚が採集されましたので紹介したいと思います。

ひとつはシャチブリという魚です｡漢字では｢鯱振｣と書くそうですが、

写真１：シャチブリ幼魚

どう猛なシャチとどう結びつくのでしょうか？この幼魚（全長 231 ㎜：写真１）が６月９日、山口との県境の沖合水深約 40mの中層で採集されました。成長した魚は沖縄や東シナ海の水深 150m～500mの深いところに生息しているため生態がよくわかっていません。当センターでは 2001 年８月と 2003 年７月に採集事例がありますが、めったに実物を見ることができない珍魚だと言えるでしょう。今年は５月に山口県長門市の海岸で幼魚が、また広島県呉市倉橋島沖で成魚が採集されたという報告が相次いでありましたが、共通の遠因によるものなどでしょうか？

もうひとつはテンガイハタです。成魚は太平洋側の沖合中層に生息していますが、この調査期間中に幼魚が３個体採集されました（写真 2）。ここ数年にはなかったやや珍しい現象と言っていいでしょう。この魚はリュウグウノツカイに近い深海魚の仲間です。成魚の報告事例は冬季に多くあり、強い北西の季節風に流されて沖から沿岸にやってくるといわれています。

写真２：テンガイハタ幼魚

対馬暖流はさまざまな生き物たちを日本海に運んできます。今回紹介したこれらの珍魚もおそらく南の海からやってきたものでしょう。これからも珍しい海の生物が採集されたら紹介していきたいと思います。皆様からの情報提供もお願いします。

島根県水産技術センター　島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL:(0855)22-1720　FAX:(0855)23-2079
ホームページ：http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/
E-mail：suigi@pref.shimane.lg.jp